

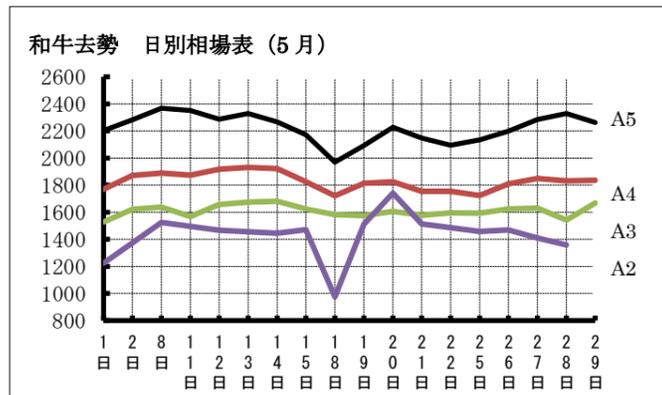
月刊しばうら

2020年6月号

牛肉営業部

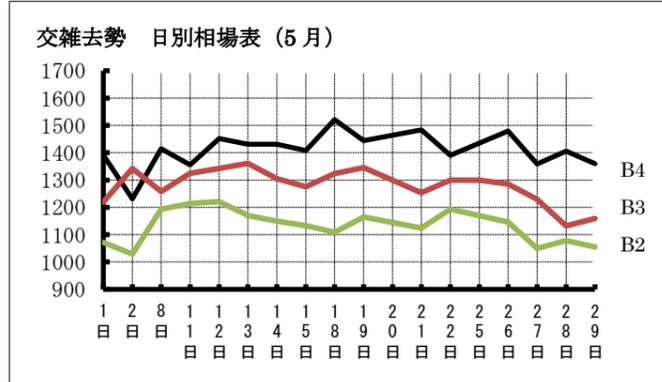
<5月の相場動向>

和牛去勢A5が前月比183円高の2,236円(前年同月比497円安)、A4が同132円高の1,835円(同597円安)、A3が同100円高の1,618円(同602円安)、A2が同202円高の1,463円(同479円安)となり、交雑牛去勢はB4が44円高の1,431円(同331円安)、B3が同73円高の1,283円(同384円安)、B2が同85円高の1,137円(同435円安)、乳牛去勢はB2で238円高の950円(同79円安)となった。GWの連休明けには補充買いも見られたほか、緊急事態宣言の解除にともない飲食店での営業再開の動きが見られるなど、外食需要がわずかながらでも回復したこともあり4月に比べ反発する展開となった



和牛去勢 (月平均)

A5	2,236円	(前年同月比 81.8%)	(前月比 108.9%)
A4	1,835円	(" 75.5%)	(" 107.8%)
A3	1,618円	(" 72.9%)	(" 106.6%)
A2	1,463円	(" 75.3%)	(" 116.0%)



交雑去勢 (月平均)

B4	1,431円	(前年同月比 81.2%)	(前月比 103.2%)
B3	1,283円	(" 77.0%)	(" 106.0%)
B2	1,137円	(" 72.3%)	(" 108.1%)
乳牛去勢 (月平均)			
B3	上場なし		
B2	950円	(前年同月比 92.3%)	(前月比 133.4%)

<6月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した貿易統計によると、4月の輸入量は前年比2.7%増の6万9,090tで、うちチルドは9.4%増の2万8,302t、フローズンは1.5%減の4万787tだった。チルドは日米TAGのSG回避のため通関が4月にずれ込んだ影響で増となり、フローズンは4万tの大台に乗ったものの、前年が年度SG回避のため4月に繰り延べられた反動により前年比で減となった。農畜産業振興機構の予測による6月の牛肉輸入数量は、前年比7.8%減の4万3,600tで、チルドは7.7%減の1万9,700t、フローズンは7.8%減の2万3,900tと予測。北米での新型コロナウイルスの影響により現地生産量の減少や豪州産の現地価格の高騰により輸入量の減少が見込まれる。

輸入牛肉通関量		4月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	11,808	12,385	95.3%
	米国	14,179	11,479	123.5%
	その他	2,315	1,996	116.0%
	合計	28,302	25,860	109.4%
フローズン	豪州	15,746	19,341	81.4%
	米国	18,344	15,480	118.5%
	その他	6,697	6,587	101.7%
	合計	40,787	41,408	98.5%

単位：t

出典：食肉速報

<6月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの個体識別情報によると、4月末時点の全国飼養頭数は前年同月比で1.5%増の390万6,951頭となり、品種別では引き続き黒毛和種及びホルス種雌は増加傾向、ホルス種雄は減少傾向にあるなか、これまで減少傾向にあった交雑種が前年同月比で1.1%の増加に転じた。

農畜産業振興機構による6月の出荷予測頭数は、全体で前年比5.5%増の8万3,500頭と予測。品種別にみると和牛は8.7%増の3万7,500頭、交雑種は0.2%増の1万8,300頭、乳用種は5.1%増の2万6,400頭と予測している。

東京食肉市場の6月のと畜頭数はオリンピックに向けて出荷を予定していたため、昨年対比で1割近く多い7,600頭を予定している。

<6月の牛枝肉相場見通し>

5月25日に緊急事態宣言は全面解除となり、飲食店の営業再開によって外食需要も徐々に回復傾向に向かうと思われるが、元の状況に戻るにはしばらく時間がかかりそうだ。6月は入梅時期に向かって需要の落ち込む時期でもあり、出荷頭数も多い見込みのため、相場の好転する材料に乏しく、新型コロナウイルスの影響にもよるがやや弱含みの相場展開が予想される。単価の安いものが引き合いの中心になると思われ、和牛の上位等級ほど厳しい相場展開が予測され、枝肉の仕上りの良し悪しにより同等級内でも価格差が開くものと思われる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,200~2,300	B4	1,400~1,500
A4	1,800~1,900	B3	1,250~1,350
A3	1,600~1,700	B2	1,100~1,200
A2	1,400~1,500		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,050		
B2	950~1,000		

豚肉営業部

4月の全国と畜頭数は、前年同月比3.2%増の144万9,147頭と前年同月より増加した。また、4月の豚肉通関数量は10万1,654t(前年同月比3.4%増)と前年同月から増加となり前月比では5割の大幅増となった。内訳はチルドが3万7,664t(4.2%増)、フローズンは6万3,989t(2.9%増)でいずれも増加した。3月から4月にかけては年度が切り替わり、TPP11、日欧EPA、日米TAGによる関税率が削減される為、抑えられた3月の輸入量の反動で4月に増えたとみられる。前年同月も同様の傾向となったが、今年は日米TAGも加わり合計で10万tを超えた。

2019-2020年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	77,788	98,235	22,544	167,222	76,406	76,281
5	75,254	84,396	21,643	184,963	76,085	66,655
6	67,048	76,246	23,332	183,952	65,290	77,257
7	74,899	83,315	21,828	192,531	76,348	76,736
8	67,745	84,982	20,615	200,018	68,891	77,385
9	68,819	78,125	20,351	197,854	69,025	80,399
10	79,112	83,940	20,128	198,840	79,247	82,954
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
比	103%	103%	103%	120%	107%	113%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t、%

4月豚肉通関実績						単位：t、%	
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比		
アメリカ	18,796	108.1	デンマーク	12,017	67.0		
カナダ	17,950	100.8	スペイン	12,606	96.9		
メキシコ	918	95.5	メキシコ	9,572	118.7		
			アメリカ	8,667	218.5		
			カナダ	4,174	117.3		
合計	37,664	104.2		63,989	102.9		

<5月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	66,400	609	588	1,063
2日		653	641	756
8日	70,900	797	757	1,085
11日	66,600	723	704	812
12日	70,200	684	670	937
13日	65,900	651	625	774
平均	68,000/日			904/日

GW明けの8日は上物相場が797円となり、その後も高値で推移した。外出自粛により行楽地などが閑散とする中引き続き量販店などは多くの買い物客の姿がみられ家庭内消費は旺盛な状況が続いた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	66,600	647	629	737
15日	64,400	592	565	878
18日	63,600	603	574	612
19日	65,700	583	552	928
20日	61,500	587	556	654
21日	66,300	607	536	640
平均	64,683/日			741/日

全国と畜頭数は6万5,000頭を割り込む日も増え、減少傾向となったが、上旬の価格高騰からの反動もあり軟調な展開となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	57,600	583	531	942
25日	62,000	567	525	535
26日	63,800	571	534	841
27日	62,400	611	544	571
28日	64,300	616	563	676
29日	59,400	605	546	810
平均	61,583/日			729/日

高値推移での枝肉相場は徐々に落ち着きを取り戻し上物相場が600円を割り込む日も出てきた。学校給食の再開は当分期待できないが、引き続きウデやモモをはじめスノ物の荷動きは堅調。ロースの引き合いは落ち着いてきた。

<6月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による6月の肉豚出荷予測では125万7,000頭(前年比104%)と予測している。当市場の6月の集荷予定頭数は1万5,000頭、1日あたりでは約682頭を見込んでいる。

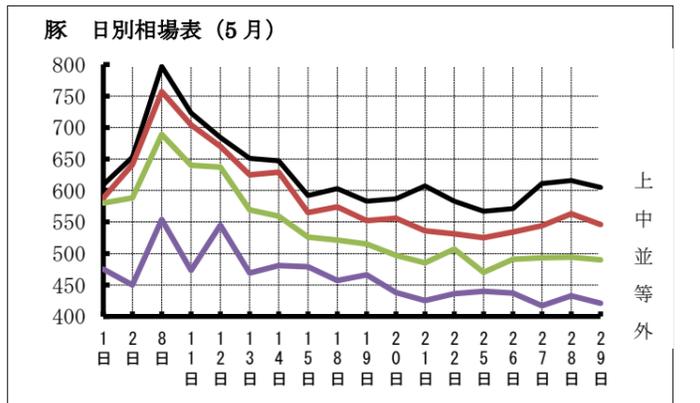
農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万3,500t(同83.3%)、内訳はチルドが2万5,600t(同80.0%)、フローズンは3万7,900t(同85.6%)と予測。

チルドの輸入量は、新型コロナウイルスの影響による北米の現地工場の稼働停止に伴う生産減等から前年同月を大幅に下回ると予測する。なお3ヵ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。フローズンの輸入量も新型コロナウイルスの影響による生産減に加え外食産業向けを中心とした荷動き鈍化の為前年同月を大幅に下回ると予測する。なお3ヵ月平均でも、前年同期を大幅に下回ると予測する。

緊急事態宣言は解除されたものの、今後もしばらくは量販店などを中心に底堅い内食需要が継続していきそうだ。さらに北米では操業停止や減産となる食肉加工場が相次いでおり、輸入チルドポークの供給不足への懸念から国産物の引き合いが強まることも予想される。

例年6月は全国的に出荷頭数が減少傾向となることに加え、関東圏ではPEDや猛暑なども今後の荷動きによっては相場に影響を与えそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格580円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
 TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127